

検討会参加者からの意見概要（山形空港）

一般社団法人東根青年会議所 理事長 富樫 正義

- ・飛行機は、時間対効果及び費用対効果の面において利用価値が高い。
- ・小中学生にとって鉄道や駅は身近な存在であるが、飛行機や空港に対しては特別感があるため、なじみ感のあるものにしたなら、空港利用に繋がるのではないかと。
- ・例えば、山形空港にある展示ブースの情報が少なく利用が難しい。ホームページを通して見える化することにより、展示ブースの利用が促進され、馴染みのある山形空港になる。

Turbine Blue 代表 新関 耀

- ・銀山温泉の接客に関して外国人からの評判が良くない。バス停もわかりにくい。リピート客が見込めないと空港利用者も減る。蔵王温泉での好事例を銀山に紹介するなどして、一緒に銀山温泉を盛り上げてほしい。
- ・Uber ライドシェアを導入してはどうか。
- ・空港に、スターバックスなど日常利用で賑わう施設が欲しい。
- ・九州地方の農業が閑散期になる山形のさくらんぼ収穫時期に、長崎から季節労働者の宿泊を受け入れている。長崎からの航空便は、乗り換えが多く非常に大変であるため、九州への新規路線をお願いしたい。九州から夏は労働、冬は観光により、山形空港の利用につながる。

山形大学理学部 1年 中村 翔

- ・現在の若者の消費行動の特徴分析から山形空港の観光地化についてアイデアを考えた。
- ・山形空港に仙台在住の方にも来てもらえるには、ニッチ（マニア）向けのコンテンツ、例えばアニメ・漫画・ゲームなどのストアを多く集めた秋葉原のようなブランド作りが有効である。これにより、仙台などの都市とのパイの取り合いを避けることにもつながる。
- ・アニメやマンガは海外でも人気が高く、そのような観光施設が空港にあったら、外国人観光客の誘致に大きな期待ができる。

東北芸術工科大学 デザイン工学部企画構想学科 2年 井上 七海

- ・山形空港をおもてなしの場とするため、山形空港を利用した人が書ける交換日記のような「旅日記」の設置を提案する。
- ・山形空港を利用した旅の思い出や経路、仕事で利用した人のおいしい飲食店の情報を書き残してもらうことにより、次に日記を書く人たちが新たな気付きやお得な情報を得ることができるのではないかと。
- ・その効果として、その日記から有益なデータが得られ、SNS等を通じて「旅日記」の情報を発信すれば、空港への新規顧客獲得も見込めるかもしれない。

山形大学人文社会科学部 4年 門傳 千宙

- ・空港構内は、一通り買い物ができ、無料の展望デッキで飛行機を間近で見ることができ、空港利用者だけでなく周辺住民も楽しんでよい。
- ・交通アクセスについては、専用シャトルバスがある山形市内からは便利だが、米沢からは不便。最寄りのさくらんぼ東根駅からのアクセスを強化すると、利用しやすくなるのではないかと。
- ・航空費用に関して、早割等を利用すれば安く利用できるが、他の交通手段に対して費用が比較的高いため、若者が利用するにはハードルが高い。
- ・行先や便数を増やすことと交通アクセスの向上が利用活性化には必要。

天童温泉協同組合 青年部長 押野 茂

- ・滑走路延長による大型機の受入はもちろんだが、天童温泉では10月から3月くらいまで海外からのインバウンドが増えている一方、夏場は少ないため、海外からの定期便を就航させ年間通して山形を楽しめるようにしてほしい。
- ・ターミナルビルの動線分離は平成29年度に実施しているが、定期便利用者やインバウンドが増えたりするのであれば、更に快適に利用できるようにしてもらいたい。
- ・旅慣れた人がよく利用する無料のラウンジがあれば、客の満足度が高まって空港の利用に繋がり、山形のモノや情報も発信できる。

㈱DMC 蔵王温泉ツーリズムコミッティ 代表取締役社長 岡崎 彌平治

- ・滑走路は長い方がよいが、最近の航空機は性能が向上し、短距離で止まれるものもある。山形空港がどういう機能を果たせばいいのか、すぐに滑走路延長できなければ、何を優先して行くかを考えなければならない。
- ・山形空港は南東北のゲートウェイとして、もう少し便数が増えれば、海外や国内便の乗り継ぎでも便利になる。
- ・大量輸送には新幹線があるが、新しいシチュエーションを作ったり、遠いところから短時間で移動できるといった面では飛行機が便利である。山形の良さを分かってもらおうという意味では、山形空港を利用していろんな国や地域から来てもらうことが有効な手段である。
- ・2011年の震災の時に仙台空港の代替として大活躍した。災害が少なく気候もいいし、欠航も少ない利点を活かしながら、将来山形空港をどう使うかを考えるべき。
- ・チャーター便の最終的な形として、定期便化を目指すのかどうか、目標をはっきりすべき。

一般社団法人米沢観光コンベンション協会 事務局長 青木 一成

- ・チャーター便は置賜にとっても影響が大きく、大変ありがたい。
- ・佐賀空港や富山空港が同じ滑走路長でもチャーター便を多く誘致しているのに、なぜ山形空港では厳しいのか。
- ・置賜の方にも二次交通を増やす新しい企画をやっていききたい。特に、道の駅に山形空港からの二次交通を繋げて置賜全体への誘客を波及させたいと思っている。
- ・山形空港に、観光情報を発信するコンシェルジュ機能を担ってほしい。
- ・モンテディオ山形との連携だとか、スポーツツーリズム誘客につながるようなアウェイサポーターへの情報発信などの取組みも面白いのではないか。

最上峡芭蕉ライン観光㈱ 代表取締役社長 鈴木 富士雄

- ・滑走路延長するにあたって、今後完成するであろう10年から15年先の山形県の人口変化をつかんでおく必要がある。
- ・東北におけるインバウンドの多くは羽田や成田を利用しており、山形県にチャーター便で来ているのは1%しかない。山形チャーター便の地域貢献度は大きくはない。隣県で近くの仙台空港の利活用を考えるべき。
- ・山形県の地域活性化のために先にやるべきこととして、魅力的な交流施設・観光地を創造するため経営資源（人・物・金）に投資すべきである。
- ・東北各地に空港が多数ある中、勝ち残るためには山形空港の差別化・特異化を図って存在価値をより一層高める必要がある。その手段として小型ジェット機・ビジネスジェット・プライベートジェットを利用して頂くため、空港設備の受入体制強化を図り、富裕層の来県誘客に向け努力すべき。

山形商工会議所 常務理事 山口範夫

- ・航空小口貨物の機能についても、空港機能強化として施設検討の中に入れて欲しい。
- ・航空貨物を使うと非常に時間が短縮できて、効果が大きい。

天童商工会議所 商業部会長 須藤 智

- ・地元の中だけでの商売では経営が成り立たなくなっており、農産品を県内や海外に EC を使って販売している人もかなりいる。山形空港の貨物輸送での利用方法も考えるべき。山形の特産品が空を飛んで行ったといった話があっても面白い。
- ・山形の特色を発信し、ヒトだけでなくモノの交流拡大を目指して頂きたい。

山形市企画調整部 公共交通課長 宮城 友嘉

- ・二次交通の維持・充実に加え、更なる利用促進により様々な面で相乗効果が発揮される。例えば、自家用車以外への支援充実ににより、駐車場拡張の必要性がなくなるのではないかと思う。また、駐車場の有料化によって、その収益を二次交通の維持等に充てれば、更なる利便性が高まり、車利用の抑制による空港の脱炭素化にもつながる。
- ・山形市では、山形 MaaS「らくのる」で空港シャトルバスの往復券と山形市内の循環バス乗車券がセットになったチケットを販売しており、これを継続することで二次交通の更なる利用促進を図りたい。
- ・市街地への滞在型観光が増加している中、移動ニーズを踏まえた広域的な移動手段の確保が必要。
- ・国際チャーター便の更なる誘致拡大を図りながら、国際定期便の就航を見据えた滑走路延長整備は必要。
- ・将来的には鉄道と空港のアクセス性を整えることができれば、広域観光において更に回遊性が向上し、モデル観光地として高付加価値化にも繋げることができる。

寒河江市企画戦略課 課長補佐 一ノ瀬 佳子

- ・寒河江市は台湾の雲林県斗南鎮と今年9月に友好交流協定を締結した。これは、観光・経済・文化・教育など様々な分野の連携や、民間交流を目的としているため、インバウンドの増加が期待できる。
- ・情報発信や誘客を進める上でも、海外から訪れやすい環境が必要である。チャーター便を含め、山形空港発着の国際便があれば、更なる誘客が期待でき、また、アウトバウンドにつながる。
- ・高校生の海外修学旅行に利用するなど、海外への扉が身近になり、グローバル人材育成にもつながる。

村山市 政策推進課長 西塚 仁

- ・山形空港が、インバウンドに対応した幅広い取り組みを進め、県全体の観光地化、活性化につなげてもらいたい。

天童市総務部 地方創生推進監 村山 秀和

- ・滑走路延長については、地域住民の利便性と観光業を中心とした地域経済としても、また防災の面からも非常にメリットが大きいと考えている。
- ・滑走路延長に関して周辺住民への対応は丁寧に進めなければならない。
- ・滑走路延長しても飛行機が発着しなければ意味がないことから、搭乗者数を増加させる必要がある。
- ・山形空港内で個人旅行客向けのオプションツアーの予約が可能となれば楽しみ方も増える。

東根市総務部 総合政策課長 青柳 昇

- ・まずは空港機能を維持することが必要であり、そのために、利用拡大策により利便性を実感してもらい、次の利用に繋ぐ好循環を創出することが必要と考える。
- ・東根市は、空港がないと活性化しないし、山形県の活性化にも繋がらない。
- ・滑走路延長の費用対効果を見せながら検討をしていく。延長には、周辺の対策が必要であり、所在市として、共存共栄できるよう地域分断の課題など周辺住民への対応を一緒に検討を進める。

河北町 暮らし応援課長 日下部 敦子

- ・河北町内でも最近ではインバウンドに対応する事業者も増えているため、大型機の就航に向けた検討はありがたいが、県内でも特定の観光地に集中していることから、様々な場所に立ち寄っていただけるような対策が必要。
- ・河北町は空港まで非常に近い位置にあり、出張にはできるだけ飛行機を利用しているが、時間の制約があるため、新幹線利用に偏っている。ビジネス利用の日帰り出張に対応できるダイヤにしてほしい。
- ・レジャースポットのような位置付けにもなっている。空港内でお茶を飲めるような施設を充実することで、親しみやすい場所になってほしい。

茨城大学 学術研究院応用理工学野 教授 平田 輝満

- ・空港の検討を進める上で、多様な意見をオープンで聞くことは大事。
- ・東日本大震災時に山形空港が仙台空港のバックアップとなったことは、その後の空港事業継続計画づくりに影響を与えており、その機能維持は重要である。防災を考える上で、滑走路延長よりも駐機場のスペース確保が大事。その他、燃料供給や医療設備・物資の基地に関する計画も必要。
- ・将来人口が減少する中で、国内線では現在よりも小型の航空機が主役になる時代が来ると推測され、小型機に対応した設備などを考えた方がよい。
- ・航空会社は、人材不足や環境対策といった課題から、路線選択はよりシビアになっている。長距離の国際線は、地域で連携し、東北全体で地域の拠点空港を活用することが現実的。
- ・長期のビジョンを作って、それを5年ごとに更新するなど、常に外部環境の変化に合わせていくやり方がよい。

山形大学人文社会科学部 教授 山田 浩久

- ・施設を検討する上で、費用をだれが負担し、どれくらいの利益があるのかを把握することが大事。
- ・南に乱川、北に村山野川があり、水害の危険性を考えなければならない。県道の地下化や乱川への影響など、様々なシミュレーションが必要になる。
- ・今後利用者数が増えれば駐車場の問題が大きくなるが、二次交通としてJRとの連携といった考えも出てくるのではないかと。ターミナルを国道13号側にして、神町駅まで人が歩ける地下道を作れば、約1km徒歩15分でつながる。
- ・東根市や河北町と連結するような道路や、貨物輸送を考えて大森工業団地との連絡道路を新たに作ることも考えられる。
- ・山形市より北側の利用を考えないと新幹線との競合に負けてしまう。
- ・まずは、誰のところに、どこの町に、どういう企業にどれくらいの利益をもたらすかシミュレーションして、将来のお金の動きをしっかりと把握することが必要である。